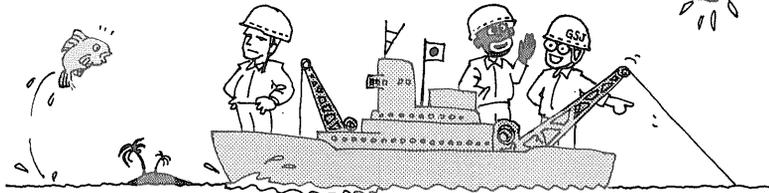


海外室だより



No.8

集団研修の新しいGIについて GIとはジェネラル・インフォメーションの略で 国際協力事業団（JICA）が 外務省を通じて割当て国に送る「研修員募集案内」のことです。研修コースの概要 応募手続等を記載したもので 相手国と相手機関はこれによって そのコースへの参加の是非を判断し人選を行うのに役立てることになります。

このように重要なGIが 従来はB5判数ページの簡単な記載で しかもその内容は手続的事項が大半を占め相手側が最も関心があるはずのコースの中味・意義・目的・到達目標・カリキュラム等を十分に伝えていないきらいがありました。

そこで JICA では 研修事業部に 作業部会を設けて検討し 外務省技術協力課とも協議の上 新しいGIの作成要領を定めました。地質調査所の「沿海鉱物資源探査」と「地下水資源開発」両コースのGIも 昭和61年度からは 20年ぶりに新しいフォームにかわります。A4判10ページ前後のものとなり 内容もより詳しくより具体的なものとなりました。

なお沿海探査コースでは これを機会にカリキュラムの内容についても 研修生の意見を取り入れて大幅な改訂を行うことになりました。おもな変更内容は次のとおりです。

- (1) 教科内容を 概論 沿海調査法 石油探査ユニット 特別講義 船上および野外実習に分け それぞれを体系化した。
- (2) 沿海調査法の中に 海上物理探査ユニットに加えて海洋底質調査のユニットを新設した。
- (3) 白嶺丸による乗船実習の他に ボートによる近海調査実習を設ける。
- (4) 沿海探査に比較的關係のうすい教科は割愛または縮少し 重点的な時間配分を行う。

また地下水についても 近日中に新しいGIの作成に取りかかる予定です。（斉藤）

紋どころ

忠臣蔵と水戸黄門は 何時 何処でやっても当る演しものです。すでに何10回と観て 筋がきは全部わかっ

ているにも拘らず なお観るものの心をつかんで放さないのは 両者とも 日本人の心情に強く共感するところがあるからでしょう。とくに 危機におちいった水戸黄門一行の最後の見せ場 「この紋どころが目に入らぬか」と助さん or 格さんがかざす印籠に 並いる悪人どもはハハッと平伏してしまう場面は 毎度のことながら 心が躍るところです。葵の紋は 当時万人の知るアンタッチャブルの印しでした。

閑話休題。紋どころ またはシンボルマークは 一見して直ちに相手に身分 もしくは組織を認識させるという非常に重要な役割りを果していることは 水戸黄門を見てもおわかりのことでしょう。大は国家の象徴である国旗から 小は会社のバッジに至るまで 英知をしぼったマークが いろいろとデザインされています。各国の地質調査所もしかりです。みなお国がらを現わしている素的な紋様をシンボルマークとして レターヘッドから名刺にまで刷りこんでいます。

一方 残念ながら我が地質調査所にはマークがありません。100周年記念にも 秀逸なマークが考えられたように ぜひ日本で一番長い歴史を持つ国立研究所である当所にふさわしいデザインが考案され 採用されたらと思うのは 私ひとりではないはずです。

さて 数回にわたって世界各国の地質調査所 または類似の組織が使用しているシンボルマークを御紹介して行こうと思います。まず南北アメリカから始めましょう。

1) 米国地質調査所 (U.S. Geological Survey)

地球科学を志す者なら誰でも知っている お馴染みのアメリカ・パイソンの図柄です。このマークは上部機関の内務省 (Ministry of Interior) の印しですが USGS そのもののシンボルマークと考えても良いでしょう。

パイソン (アメリカ野牛) は 白人がアメリカ大陸に渡って来た当初は4500万頭もあり 文字どおり地を覆って米国の象徴とも言うべき動物でした。ところが肉と皮を目的とした大量屠殺が始まり 虐殺につぐ虐殺から全土でたった350頭にまで激減して 絶滅寸前となりました。現在は保護が行き届いて 50万頭にまで回復したそうです。この野牛が USGS のマークとしてとり



図1 (a)



図2



図4



図5

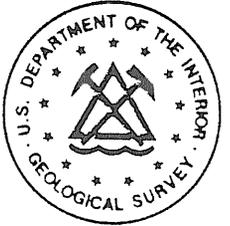


図1 (b)



図3



図6

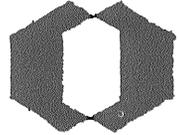


図7

いれられているのは アメリカの自然とその保護 保存 (Conservation) を象徴していて 秀逸な図柄です。

アラスカのアンカレッジのホテルのロビーで 壁にかかったアラスカ探検のルートマップを見かけたことがあります。 図廓の下にまごうことなき野牛のマークがついているのを見つけ 一瞬にして USGS の業績とわかりました。 19世紀から USGS は極地探検まで行っていたことが一目で知れたことも このシンボルマークのお蔭です。 (図1 a)

最近では野牛マークの他に(b)の USGS 独自のマークも使用するようになってきました。 (図1 b)

2) カナダ・地質調査所 (Geological Survey of Canada)

カナダの国土にハンマーの交叉が図柄で 1842年創立の字が見えます。 英・仏両国語が使用されている国なので 地質調査所の標事も二か国語で記されています。 カナダの独立は1867年ですから それ以前英国植民地時代のことのようです。 (図2)

3) メキシコ・鉱物資源審議局 (Consejo de Recursos Minerales)

我が地質調査所に相当する組織ですが 機能的には金属鉱業事業団にむしろ近いと言えます。 地質図幅も鉱物資源関連地域が主体であり 一般地質図は大学等で作成されています。 図案は鉱物資源局の頭文字 CRM を使った大変にわかり易いデザインです。 (図3)

4) ドミニカ共和国・鉱物総局 (Direccion General de Minería)

カリブ海に浮ぶイスパニョーラ島にハンマーを交叉させた紋章の周囲に 鉱物総局 ドミニカ共和国 サントドミンゴと書かれています。 多色刷りで海は青 島はセピア ハンマーは白 周囲の字は黒を使用したカラフルなデザインです。 ドミニカ共和国 (Republic of

1986年3月号

Dominica) は イスパニョール島をハイチ共和国と二分して 東側を国土としています。 南米ベネズエラの沖 西インド諸島にあるドミニカ国 (Commonwealth of Dominica) としばしば間違えられます。 昭和59年度の地下水集団研修に一名が初参加しました。 (図4)

5) コロンビア・国立地質調査所 (Servicio Geologico Nacional)

国立地質局は鉱山・石油省に属しています。 紋章はコロンビアの国土にハンマーの交叉です。 地質 鉱山関係の紋としては ハンマーを交叉させたデザインがもっとも一般的のようです。 コロンビアは北側は大西洋 北の中央部はパナマ地峡を通じてパナマ 西側は太平洋 南側はエクアドル ペルー 北東部はベネズエラ 南東部はブラジルと国境を接した 大変に境界が複雑な国です。 (図5)

6) ブラジル・国立鉱産局 (Departamento Nacional da Producao Mineral DNPM)

字句どおり訳すと 国家鉱物資源生産局となりますが この組織が日本の地質調査所に当ります。 紋章は御覧のとおり非常に複雑な図案になっています。 高級管理者の名刺には多色刷りで印刷されており、美しいものです。 この図ではわかり難いのですが 中央の円の中は薄い水色の中にブラジルの国土と5つの星が白く浮き出しています。 (図6)

7) 鉱物資源探鉱公社 (Companhia de Pesquisa de Recursos Minerais PRM)

は日本の金属鉱業事業団にあたり 調査 探鉱を行っています。 原版は美しい水色です。 (図7)

(つづく・桑形)